

美濃焼と茶道

美濃焼と茶道は、戦国時代（1467-1568）の激動の時代に隆盛を極めた。その人気の急拡大の背景には、織田信長（1534-1582）の影響が大いに存在した。信長は、軍事的な征服によって本州の多くを支配下に置き、日本の偉大な統一者の一人として知られている。信長は 1567 年から岐阜城を本拠地とした。信長やその後継者である豊臣秀吉（1537-1598）は、茶の湯をたしなんだ。当時、茶道は政治的な交渉に重要な役割を果たしていた。信長のような指導者は、お気に入りの家臣に高価な茶道具を与え、茶道を出会いや外交の場として利用した。

信長は茶道を、その教えが現代の茶道の基礎となっている千利休（1522-1591）に学んだ。利休はその影響力ある立場から、織部、黄瀬戸、瀬戸黒、志野などの美濃焼を含む、不定形で素朴な日本の焼きものの芸術性を認めた。美濃焼の素朴さは、信長の領地の茶室の洗練されたシンボルとなった。

この展示では、美濃焼と茶の湯の間に存在する重要な接点を、多くの茶道具を展示することで証明している。茶碗はもちろん、茶入（ちゃいれ）、水指（みずさし）、水注（すいちゅう）などの茶道具が展示されている。